

五二 堂縁どうぶちの陰に土筆の二三本

五三 山笑う樋にかかりしフリスビー

五四 咲き誇る桜花艶やか地を染めて

五五 卒業や体育教師の胸に花

五六 山笑い空を染めつつ陽を放つ

五七 美容院春風入れる菌予防

五八 入念な手洗い強い花衣

五九 媪おうならの語るままごとと桃の花

六〇 金色の夕日に似たり柚子の風呂

六一 キッチンのスポンジ替へる春愁

六二 海峡の船笛ぼおと山笑ふ

六三 青空にスカイツリーの雪解ける

六四 春の闇ふかし耳の孔痒し

六五 菜の花へ向かう光のラッシュアワー

次回の兼題（ ）

次回の句会 四月 二十七日（月）